

第4回第三者委員会 委員指摘事項と対応方針(案)

平成 2 8 年 8 月 4 日

農林水産省

第4回第三者委員会 委員指摘事項と対応方針(案)

区分	指摘事項	委員名	対応方針(案)
評価構造 (ロジック)	・交付金の目的は、①農業・農村の有する多面的機能の維持発揮、②構造改革の後押し、の2つがあるが、これらの目的(成果)を作り出すための手段と成果の論理構造を整理することが必要。	水谷委員	・①多面的機能の発揮、②構造改革の後押し、の2つ目的をベースに、活動の成果を、インプット、アウトプット、アウトカムで整理した上で、評価の視点を補強する。 ・その際、観光や防災・減災の視点なども追加する。 【資料3】
〃	・評価については、手段と成果の関係性を整理する必要。 ・項目の整理とそれぞれのウェイトをどうするか整理が必要。 ・インプット、アウトプット、アウトカムを整理する必要。	中嶋座長	
〃	・評価の視点が、農業に片寄っているように思う。多面的機能の発揮を前面に出して評価をすることが重要。	鷲谷委員	
〃	・多面的機能支払は、その資源を生み出す取組であり、相乗的効果を生み出し、観光につながっていることを評価することも必要ではないか。	河野委員	
〃	・交付金の取組によって、社会(地域コミュニティ)が強化されれば、災害や様々なリスクの対応力の向上に繋がるが、データから、地域がどういう方向に動きつつあるかという像を、中間評価に記述できれば。	鷲谷委員	
〃	・ハザードからのプロセスを構造的に捉え、多面的機能支払による防災・減災効果を整理することが必要	中嶋座長	
評価 ポイント	・中山間地域に分散した農業者が中心の集落でも、今回の多面的機能支払で、活動が可能になったが、今後、そのような地域をどうするか、フォローの方法を考えていく必要がある。	水谷委員	・中山間地域の取組状況について分析を行うとともに、今後のフォローすべき課題を整理する。 【資料4-3】
評価 ポイント	・今回の分析をさらに深めて、地域類型区分と規模などとクロス集計をすることが必要。	中嶋座長	
評価 ポイント	・日本型直接支払として、同じ法のもとで取り組んでいる中山間地域支払と、情報を共有しているか。評価基準等を共有するなどの工夫も検討すべき。	星野委員	
評価 ポイント	・第三者委員会では、課題を明確にすることも重要であり、情報は良い点のみならず、課題も発信することが必要。	中嶋座長	・今後のフォローすべき課題を整理する。
評価 ポイント	・農村では、日本農業が抱えている負の部分である、農業者の高齢化や離農による減少がデータに現れている。このようなことに、フォローすべきメッセージも中間評価に入れていく必要がある。	河野委員	・今後のフォローすべき課題を整理する。

区分	指摘事項	委員名	対応方針(案)
方向性	・広域活動組織化は、多面的機能支払の取組を安定的、効率的に実施するためには重要であり、行政としてイニシアチブを取ることが必要。広域化のインセンティブの導入やメリットのPRを行ってはどうか。	天野委員	・活動組織の広域化の推進を図るためのメリット措置やPRを進める。
方向性	・活動の継続には、後継者の育成に力を入れるべき。イベントの取組なども活用してリーダーを確保していくことが必要。	天野委員	・地域のリーダー育成の推進に向けた研修への参加促進や、メールマガジンによる関連情報の発信を進める。
方向性	・防災・減災の体制を整えるには、地域リーダーの育成についても重要。	中嶋座長	
評価ポイント	・活動に取り組む当事者の意識が重要。	河野委員	・自己評価結果を分析するとともに、当事者の意識向上に向けた取組を検討する。
評価ポイント	・地域経済の活性化の調査は、良い結果がでていと思うが、さらに良いところも悪いところもサンプル数を増やして欲しい。他の施策との比較なども調査できないか。	星野委員	・地域経済の活性化の追加調査を検討する。
優良事例	・優良な事例を積極的に情報発信し、横展開していくことが重要。	河野委員	・環境保全に取り組んでいる代表的な種や対象を整理し、優良事例の追加調査を行う。 ・HPやメールマガジンを活用して、優良事例の情報を発信。 【資料4-1】
優良事例	・優良事例については、選び方が重要。コウノトリやマガンは、近年、増加しており、多面的機能支払の取組が、それらの保全を支えていることを伝えれば、国民の理解も早い。 ・地域の特徴を捉えた事例の選定も重要。例えば、生物多様性の保全のため、草原の保全が重要であり、阿蘇の草原の保全事例も加えてはどうか。	鷲谷委員	
評価ポイント	・環境保全の取組は、地域を巻き込んでいることで効果が大きい。環境が良いということは人が来るということで、観光という側面でも効果を考えて良いのではないか。	西郷委員	
評価ポイント	・環境保全の活動を通して、都市と農村の交流を高めていく工夫をしていくことが良い効果を生み出し、農村に自立を促すことになる。こういう事例調査がもっと欲しい。	西郷委員	
評価ポイント	・農業は、作付面積や生産量を高めるだけでなく、バリューを高めることが重要。	西郷委員	
認知度	・効果については、国民に認知されているか、かけ算をすべきであり、そのようにしなければ見える効果として出てこない。	星野委員	・農業農村の多面的機能や活動に関するPRの取組について、調査する。 ・国民の認知度を上げるためのアピール手法について検討を行う。
認知度	・国民全体でなくても、地域の認知度を調査することは意義がある。県をいくつかに分けて、多面的機能支払の活動について認知度を聞くことも良いと思う。	西郷委員	
認知度	・国民のために、多面的機能を発揮するための手段を認知してもらうためのアピールが必要。	中嶋座長	